

◆ 平成 30 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：嵐山町里山保全会

(助成番号 21A-29)

代表者：会長 神岡裕介

URL :

1. 活動が必要とされた状況

嵐山町は、少子高齢化の影響により山林管理ができない現状が多く見受けられる。人工林の多くは、外材との価格競争により、経済的な面で管理をしなくなった、現在は、先に挙げた高齢化という物理的な面でも管理ができなくなってきている。管理放棄が起こり、人工林が持つ公益的機能(生物多様性や水源かん養、二酸化炭素や蒸発散作用による調整機能)も乏しくなってきている。また管理放棄から、自然景観や人と自然の関わりから生まれる情景も減少し、人々の自然や地域への興味関心も薄れていく現状もみられる。上記のような課題や現状を打破すべく活動することは必須であった。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

当会は発足したばかりであるため少人数である。人数を多く募るために6月9日(無垢・剥く日と銘打って)を実施して活動の発信を図った(表参照)。



内容	参加人数	時期	備考
下草刈り	4人	5月中旬	
下草刈り	3人	5月中旬	
下草刈り	2人	5月下旬	
林内整理	2人	6月上旬	倒木・ゴミ整理整頓
皮むき作業	30人	6月上旬	嵐山町長・議員も参加
皮むき作業	7人	7月上旬	
皮むき作業	7人	8月中旬	NHKさいたま放送局員参加
皮むき作業	3人	8月下旬	
皮むき作業	8人	9月上旬	埼玉県職員参加

3. 活動の成果

活動拠点(山林内)ができたことで地域や県内の方に、皮むき間伐や当会の活動目的・趣旨を発信することができた。今年(平成31年8月実施予定)は、当会の山林を活用して日中韓環境教育ワークショップの1コマを実施する予定。



左：助成金で購入した機材 中央：イベント風景 右：皮むき作業

4. 今後に残された課題

当会の活動を、地域内の方に周知してもらい、活動拠点であるとともに交流拠点となるような整備をしていきたい。また、当会は30~40代が主要メンバーであるため、可処分所得が限定的であるため、活動資金を最低限生産していくことで、安定的な継続性に繋げていきたい。そのためには、製材機や林内作業車などで整備効率を上げて、間伐材の販売(下写真参照)を行い、メンバーの自己負担を軽減したい。

